

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立上神谷小学校  
校長 橋本 和紀

中学校区におけるめざす子ども像・若松台学校群における重点目標

自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子 ～教科教育・総合の学習の時間の中で「探究」と「対話」する活動を通して～

令和7年度 重点目標

上神谷を探究し、対話する子どもの育成  
～対話を重ね探究する活動を通して、概念的知識の獲得をめざす～  
「多様性」 「持続可能性」 「相互性」 「連携性」

## 「確かな学び」の現状

- ・「ふりかえり」を活用した授業づくりに取り組んでいる成果は出てきていて、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られている。今年度も、自分のふりかえりから新たな探究課題を見出す児童の育成に取り組んでいきたい。
- ・「読書意欲の向上」の取り組みの成果が出てきている。読書タイムの確保、読書キングの表彰など、読書意欲が向上する取り組みなどを引き続き取り組んでいきたい。併せて、家庭での読書習慣を定着させるために啓発活動を実施したい。
- ・探究学習に主体的に取り組むために、対話での学びを深めたり、学校内外に積極的に発表する活動を充実させたい。

## 「豊かな心・健やかな体」の現状

- ・学習や対人関係を起因した不登校傾向にある児童が数名いる。児童とかわる時間を確保するなど、不登校傾向にある子どもたちへの支援が引き続き必要である。
- ・体力・運動能力、運動習慣等調査では、堺市平均を上回っている種目が多い。しかし、投てき運動に取り組んだ成果は出ているものの、まだまだ投げの能力には課題がある。
- ・自分からすすんであいさつする児童の割合が徐々に増加しているが、さらにあいさつ啓発活動に積極的に取り組みたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎学力	・基礎学力の定着をめざし、その力を基に探究し課題解決する力を向上させる。 ・読書量を増加させ、読書量の増加と論理的思考の向上をめざす。	●自分の考えや友だちの意見からのふりかえりを大切にすることで、自ら探究し続けられるようにする	「ふりかえり」の5つの視点を参考に自分の考えや友だちの考えからふりかえり、新たな課題を見出している。	児童のノート 教育アンケート	年度末	○	○	○
			・朝読の時間を充実させ、読書ノートなどの活用や読書キングの表彰などで読書量を増やす。 ・家庭の読書習慣定着に向けた取り組みを実施	家で読書をしている児童を50%以上に。本をよく読むようになった児童を70%以上に。	教育アンケート	年度末	○	○	○
	授業改善	・どの授業でも探究する活動を充実させ、児童用PCを活用した問題解決学習とわかりやすい授業を行う。	●前時のふりかえりを学習の導入に使うなど、学びの連続性を意識した授業を実践していく。	前時のまとめを授業のめあて設定時に想起する授業を行っている。	児童のノート	年度末	○	○	○
			★児童用PC活用し、児童が主体的に「探究する」授業づくりを意識した公開授業を全教員が行う。	「生活・総合」の学習は楽しいと思っている児童を90%以上に。	教育アンケート	年度末	○	△	○
豊かな心 健やかな体	心の教育の充実	・相手を尊重し、思いやりの心を育て、一人ひとりの自尊感情を高める。 ・互いを認め合う仲間づくりをたてわり活動などを通して行う。	・たてわり活動の充実により、思いやりの心を育て、いじめを許さない児童を増やす。	「いじめは悪い」という意識を持っている児童の割合を100%にする。	教育アンケート	年度末	○	△	△
			・自尊感情を育てるために、教師の認める活動や上神谷ルームの活用を充実させ、子どもが主体的に活動し、達成感を味わえるようにする	「先生は認めてくれている」と感じる児童を95%以上に。	教育アンケート	年度末	○	△	○
			・子どもたちがあいさつできるように啓発活動に取り組み、自主的にあいさつできるようにする。	毎日、学校や地域で声を出してあいさつしている児童を90%以上に。	生活アンケート 教育アンケート	年度末	○	○	○
	健康な体づくり	・日常的に運動する子どもを増やし体力の向上を行う。 ・規則正しい生活の励行を推進する。	・自己の成長をふりかえるなど、授業構成の工夫を行い運動が好きな児童を育成する。	運動が好きという児童を90%以上に。	教育アンケート	年度末	○	○	○
			・生活リズムの基本である睡眠時間の大切さを理解させ、早寝・早起きの習慣を育む。	早寝・早起きしている児童を85%以上に。	教育アンケート	年度末	○	△	△
			・保護者からの「いじめが起らないよう努力している」との肯定回答が95%あり、一定の評価を得ていると考える。一方で、児童の自尊感情の向上については引き続き取り組む必要がある。あいさつの定着に向けた取り組みをさらに進める必要がある	毎日の人間関係づくりが積み重なり、相手を大切に育てる姿勢が着実に育っている。	教育アンケート	年度末	○	△	○
地域協働	開かれた学校 ・地域・家庭・学校の協働をそれぞれが意識した教育活動を推進する。	地域について探究する活動を充実させ、地域に学習の成果を発表する機会を設けるなど、積極的に働きかける。	地域に発表する活動や、地域の人と関わる学習が好きだという児童を80%以上に。	教育アンケート	年度末	○	○	○	
		朝礼・「校報」HPを活用し、学校・地域の行事を積極的に発信し、児童・保護者に周知する。	地域行事について知っている児童が80%以上に。	教育アンケート	年度末	○	△	○	

## 校長より (年度末)

本年度は、「探究」と「対話」を軸とした授業改善に継続して取り組み、児童が自ら学びを振り返り、次の学びへつなごうとする姿が多く見られるようになった。また、読書活動や地域と関わる学習を通して、学びへの意欲や他者を大切にすることも着実に育ってきている。一方で、生活習慣の定着や不登校傾向への支援など、引き続き丁寧な対応が求められる課題も明らかになった。今後も、教職員が共通理解のもと協働し、児童一人ひとりの成長を支える教育活動の充実を図っていきたい。

## 学校関係者評価者から (年度末)

探究と対話を大切にした教育活動が着実に進められ、児童が主体的に学びに向かう姿や、友だちを思いやる関わりが随所に見られた。地域と連携した学習や読書活動など、学校全体で継続的な取組が行われている点も高く評価できる。今後は、生活習慣の定着や情報発信の工夫を通して、家庭・地域との連携がさらに深まることを期待したい。